

§1 2021 年度原子核三者若手夏の学校開催案 について

文責：春名純一 (京都大学)

1.1 概要

来年度に夏の学校を開催するにあたり，重大な懸念事項として新型コロナウイルスの流行がある．その流行具合によってはオフラインでの開催が可能かどうかが変わってくる．準備校としては，これに対応するために完全オンライン案とオンラインとオフラインのハイブリッド案の2つを検討している．これらの案のどちらかを採用するかは **2021 年 4 月時点での国内の感染状況を鑑み，基礎物理学研究所の事務と相談して 2021 年 4 月に総合的に判断する**．

- 開催日時
開催日時はどちらの案も変わらず，**2021 年 8 月 6 日 (金)-10(火)** の 5 日間とする．
- 開催場所
完全オンライン案ではオンラインにて，ハイブリッド案では基礎物理学研究所とオンラインにて行うことを予定している．詳細は後述する．
- 参加人数の見積もり
2019 年度開催の原子核三者若手夏の学校および 2020 年度開催の素粒子若手オンライン研究会の参加者数を鑑みて，本研究会では 200 名から 300 名程度の参加者を見込んでいる．
- 開催内容
以前と同じく招待された講師による講義，口頭発表，ポスター発表，懇親会を行う．その実施方法については各案で異なる (後述)．

1.2 完全オンライン案

この案は新型コロナウイルスの流行が拡大し，感染を防ぎながらのオフラインでの開催が難しいと判断された場合に採用される予定である．具体的には京都大学の活動制限レベルでレベル 2 以上の場合はこの案が採用される．加えてレベル 2 マイナス以下でも感染状況次第では採用される予定である．

1.2.1 開催場所

- 講義・口頭発表
講義と口頭発表は Zoom にて行う．口頭発表は Zoom の部屋を (複数) 作り，運営側から各部屋に 1 人の司会進行を割り当てる．講師及び発表者は自分の端末を用いて講演を行う．聴衆は Zoom 上でマイクを用いるか，もしくは Zoom や Slack のチャット機能を用いて質問

を行う。優秀発表賞については Google フォームを用いたオンライン投票とする。

- ポスター発表

ポスター発表は Remo にて行う。発表者ごとにテーブルを割り当て、聴きたい発表のテーブルに聴衆が移動する形にする。発表者はポスター発表の時間帯のうち前半は自分のテーブルにて発表を行わなければならないが、後半は自分のテーブルを離れて自分以外の発表を聴いても構わないとする。優秀発表賞については、口頭発表と同じく Google フォームを用いる。

- 懇親会

懇親会は Remo で行う。具体的には研究会後の時間帯に Remo を解放し、ランダムに割り当てられたテーブルにて参加者が交流を行う。このときテーブル間の移動や Remo への入退室は自由とする。

また夏の学校開催期間前後を通して Slack のワークスペースを開設する。これを通じて発表時の質問受付や自由な議論、参加者の交流の促進を行う。

1.2.2 費用

想定される費用は Zoom, Remo の利用料金のみである。詳細は準備校の予算案を参照。

- 旅費補助

本案はオンラインで開催するため旅費の補助は必要ない。

- 参加費

素粒子論グループおよび基礎物理学研究所からの支援で全費用を賄うことができるため、参加費は無しとする。

1.3 ハイブリッド案

この案は新型コロナウイルスの流行がある程度収まり、感染を防ぎながらのオフラインでの開催が可能だと判断された場合に採用される予定である。具体的には京都大学の活動制限レベルでレベル 2 マイナス以下であることを必要条件とする。

1.3.1 開催場所

開催場所として Zoom, Remo, Slack に加えて基礎物理学研究所を利用する。

- 講義・口頭発表

講義と口頭発表は Zoom と基礎物理学研究所にて行う。オンライン参加者の発表方法は完全オンライン案と同様である。オフライン参加者は基礎物理学研究所のパナソニックホールやセミナー室にて Zoom を介して発表を行う。このとき発表者の講演やオフラインの聴衆の質問は、PC に接続したマイクを用いて行うことで、オンライン参加者にも共有することが可能である。優秀発表賞についてはオンライン案と同様である。

- ポスター発表

ポスター発表はオンライン案と同様に Remo にて行う。オフライン参加者も基礎物理学研究所のパナソニックホールやセミナー室から自分の端末を用いて Remo にログインする。優秀発表賞についてはオンライン案と同様である。

- 懇親会

懇親会もオンライン案と同様に基本的に Remo で行う。オフライン参加者は帰宅後から Remo へ参加する形を想定している。ただし運営としてはオフライン参加者の有志が Remo とは別にオフラインの懇親会を企画して行うことを禁止しない。

1.3.2 費用

想定される費用は Zoom, Remo の利用料金のみである。

- 旅費補助

オンライン参加者については旅費の補助は必要ない。オフライン参加者については遠方からの移動を制限する目的で交通費のみ補助し、宿泊費の補助を行わない。これは宿泊を禁止するものではなく、宿泊費を自費で払えば宿泊しても構わない。ただし運営側は宿を用意しないため、宿も参加者が自分で予約する形になる。

- 参加費

素粒子論グループおよび基礎物理学研究所からの支援で全費用を賄うことができるため、参加費は無しとする。

以上です。ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。